

冷え込みが厳しくなってきましたが、いかがお過ごしでしょうか。

木枯らしにゆすられ
青い松葉も落ちています。
風に磨かれた大空は
澄み切って、もう星が瞬いています。
今日も快晴
今夜は、真空で磨かれた
冬のダイヤモンドが眩く輝きそうです。

それでは今月も行ってみましょう。

2026年 1月

【主な現象】

1月 2日	月が最近 (6時44分)
1月 3日	満月 (19時03分)
1月 4日	しぶんぎ座流星群が極大 (6時) 地球が近日点を通る (2時16分)
1月 6日	金星が外合 (17時13分)
1月 7日	レグルスの食 (東京: 潜入 1時16分)
1月 9日	木星が衝 (18時31分) 火星が合 (10時10分)
1月11日	下弦 (半月) (0時48分)
1月14日	月が最遠 (5時47分)
1月19日	新月 (4時52分)
1月21日	水星が外合 (8時17分)
1月26日	上弦 (半月) (13時47分)
1月30日	月が最近 (6時46分) くじら座 α (ミラ) が極大光度

【解説】

★しぶんぎ座流星群は、12月28日ごろから1月12日ごろまで活動します。極大は 1月04日06時で、極大時の出現数は1時間あたり20個程度で、速度はやや速く、極大時間の前後数時間の間に集中して出現するのが特徴です。

極大時の月齢は14.8で一晩中満月の影響があり最悪です。

4大流星群の1つで毎年安定して多数の出現がありますが、ピークが急峻で極大時が昼間になる場合や、極大時の輻射点高度が低いと、夜に見える出現数が減少してしまいます。極大は、ずれることもあるので、前後1日は要注意です。

★1月7日のレグルスの食は、月齢17.6の月に隠れるところが、ほぼ日本全土 (沖縄以外) で見られます。
南東の空、高度約60°で起こります。

食の進行 (東京)

潜入 1時16分 出現 2時20分

★木星が見ごろとなっています。ほぼ一晩中見られます。

★くじら座 α (ミラ) が明るくなっています。秋の星座ですが、日の暮れるのが早いので、まだ夕方南の空によく見えます。

【観望案内】

★接近

- 1月中 土星と海王星が
夕方南の空（17時30分以前）で
接近して見えます。
見ごろは17時00分ごろでしょう。
- 1月04日 ポルックスと木星と月（月齢14.5）が
夜半前南の空（17時10分以降）で
接近して見えます。
見ごろは23時00分ごろでしょう。
- 1月11日 スピカと月（月齢21.7）が
未明に南東の空（0時20分以降）で
接近して見えます。
見ごろは3時00分ごろでしょう。
- 1月15日 アンタレスと月（月齢25.8）が
明け方南東の空（4時00分以降）で
接近して見えます。
見ごろは6時00分ごろでしょう。
- 1月23日 土星と月（月齢4.5）が
夕方南西の空（21時25分以前）で
接近して見えます。
見ごろは18時00分ごろでしょう。
- 1月31日 ポルックスと木星と月（月齢12.7）が
宵に南東の高い空
（2月01日 6時20分以前）で
接近して見えます。
見ごろは21時00分ごろでしょう。

- ※ ◎：非常に接近するか、見た目が特にきれいと思います。
○：見ておもしろいと思います。
△：高度が低かったり、薄明の中であつたりで見にくいと思います。
但し、朝焼けや夕焼けと山の稜線も入れて写真にする等
意外とおもしろい可能性はあります。
◇：双眼鏡や望遠鏡で見られます。

★日没

東京での日没は

1月 1日	16時38分
1月 8日	16時44分
1月15日	16時51分
1月22日	16時58分

もう少し日の暮れるのが遅くなりだしています。

東京での初日の出は 6時51分 です。

★今宵の空

日が暮れると（18時～19時ごろ）

まだ秋の星座がよく見えます。

天頂付近 おひつじ座、さんかく座、アンドロメダ座、ペルセウス座

南の空

高 くじら座
中 ろ座
低 ほうおう座、とけい座の一部

南西の空

高 うお座
中 土星、ちょうこくしつ座
低 みなみのうお座の一部

西の空

高 ペガサス座
中 みずがめ座
低 こうま座、いるか座、やぎ座の一部

北西の空

高 とかげ座
中 はくちょう座、こぎつね座
低 や座、こと座

北の空

高 カシオペヤ座、きりん座
中 ケフェウス座、こぐま座
低 りゅう座、おおぐま座の一部

北東の空

中 やまねこ座

東の空

高 ぎょしゃ座、おうし座
中 木星、ふたご座、いっかくじゅう座、こいぬ座
低 かに座

南東の空

中 オリオン座、うさぎ座、エリダヌス座
低 おおいぬ座、はと座、ちょうこくぐ座

が出ています。

★星のお話

はと座 [鳩]

設定者：プランキウス

C o l u m b a (C o l)

面積：270平方度

《The Pigeon》

はと座を見てみましょう。

1603年にプランキウスが「ノアのハト」^{☆01)}として設定した星座です。旧約聖書の話から新設された星座で、元はノアのはと座でした。

1603年にバイエルが作った^{☆02)}、バルチウスが1624年の著書に記した^{☆03)}、ともありますが、当時の天文学者には無視されていました。

ロワーエが、1679年に発表した星図に採用^{☆04)}して以来、使われるようになりました。

古代メソポタミアや古代エジプトでは、このあたり（うさぎ座のあたり）に雄鶏があった^{☆05)}ので、関連が気になります。

また、ギリシア神話のアルゴ遠征隊の話で、岩と岩の間を通り抜けることができるかを知るためにアルゴ号の船首から1羽の鳩を放った、というところで、鳩が登場しますが、つながりはなさそうです。

*星の並び

はと座は、オリオン座が高く昇って見える時、その下（南）に見えるうさぎ座（4つの3等星と6～7個の暗い星の集まり）のさらに下（南）にあります。2つの3等星 α 、 β と4等星の ε が横に（東西に）長い三角形を作っているのが目印となります。よく見ると、東側の三角形の頂点 β から東の方に γ — κ — δ と4等星が延びて、 β から南東の方に少し離れて4等星の η があります。

星座絵ではオリーブの枝をくわえた鳩の姿になっていますが、星の並びを見ただけではなかなかその姿を想像できません。

冬の澄んだ空で、オリオン座—うさぎ座—はと座の、一連の並びは目につきやすく覚えやすい星座です。

*星の名前

α はファエト^{☆06)}、ファクト^{☆07)}（意味不明）

β はウェズン^{☆07)}「重量」

と言う名前が付いています。

*観望

特に有名な天体はありませんが、銀河や球状星団があります。

球状星団 NGC 1851 5cm双眼鏡^{☆08)}

*神話

1600年ごろに新設された星座なので、ギリシア神話はありませんが、旧約聖書の話でノアの方舟から放たれた鳩ということになっています。

旧約聖書の創世記に出てくる話で、地上に悪人が増えたことに怒った神は神に従うノアに、洪水で滅ぼすことを告げて、方舟（はこぶね）を作るように言いました。ノアは家族と全ての動物を1対ずつ乗せて洪水をのがれ、それ以外の生き物は全て滅びました。^{☆09)}

方舟は40日40夜漂流したあと、一羽の鳩を放つと、オリーブの枝をくわえて戻ってきたので、水がひきはじめて陸地が現れたことを知った^{☆10)}という話です。

アルゴ座の船を、方舟と見立てて、はと座が作られたと言われています。^{☆10)}

☆01)【星の文化史事典 出雲晶子 白水社】

☆02)【カラ—天文百科 小平桂一 監修 平凡社】

☆03)【星 山本一清 晃文社】

☆04)【天文の事典 小平桂一、日江井栄二郎、堀源一郎、監修 平凡社】

☆05)【星座神話の起源—古代メソポタミアの星座 近藤二郎 誠文堂新光社】

☆06)【星の百科 草下英明 社会思想社】

☆07)【ほしぞらの探訪 山田卓 地人書館】

☆08)【四季の天体観測 中野繁 誠文堂新光社】

☆09)【星座 沼澤茂美・脇屋奈々代 ナツメ社】

☆10)【星座手帖 草下英明 社会思想社】

★夜更けの空

夜が更けると（22時～23時ごろ）

冬の星座が出そろっています。

天頂付近 ふたご座、ぎょしゃ座、やまねこ座

南の空

高 オリオン座、いっかくじゅう座

中 おおいぬ座、うさぎ座、はと座、とも座

低 ちょうこくぐ座、りゅうこつ座の一部、がかに座の一部

南西の空

高 おうし座

中 エリダヌス座

低 とけい座の一部、ろ座

西の空

高 ペルセウス座

中 おひつじ座、さんかく座

低 うお座、くじら座の一部

北西の空

中 アンドロメダ座、カシオペヤ座

低 ペガスス座の一部、とかけ座

北の空

高 きりん座

中 ケフェウス座、こぐま座

低 りゅう座

北東の空

中 おおぐま座、りょうけん座

低 うしかい座の一部

東の空

高 かに座

中 しし座、こじし座、ろくぶんぎ座

低 かみのけ座、おとめ座の一部、コップ座の一部

南東の空

高 木星、こいぬ座、うみへび座の頭

中 らしんばん座、

低 ポンプ座、ほ座の一部

が出ています。

★惑星

水星は、1月初めは明け方南東の地平線近く、1月末には夕方南西の地平線近くに見えます。1月21日が外合で明け方から夕方に移り変わる途中なのでいずれもあまり高度は高くありません。

1月 1日は、 6時03分に昇ります。
1月 8日は、 6時25分に昇ります。
1月15日は、 6時43分に昇ります。
1月22日は、 6時58分に昇ります。

金星は、1月6日が外合で太陽の近くにいます。

1月 1日は、 6時48分に昇ります。
1月 8日は、 6時57分に昇ります。
1月15日は、 7時03分に昇ります。
1月22日は、 17時12分に沈みます。

火星は、いて座にいて、太陽の近くにいます。

1月 1日は、 7時04分に昇ります。
1月 8日は、 6時58分に昇ります。
1月15日は、 6時51分に昇ります。
1月22日は、 6時43分に昇ります。

木星は、ふたご座にいて、夕方東の空、夜半ごろ南の空に見えます。

1月 1日は、 17時19分に昇り、 0時32分に南中します。
1月 8日は、 16時47分に昇り、 0時01分に南中します。
1月15日は、 23時25分に南中し、 6時40分に沈みます。
1月22日は、 22時54分に南中し、 6時09分に沈みます。

土星は、みずがめ座からうお座にいて、夕方南西の空に見えます。

1月 1日は、 16時47分に南中し、 22時38分に沈みます。
1月 8日は、 16時21分に南中し、 22時13分に沈みます。
1月15日は、 15時55分に南中し、 21時48分に沈みます。
1月22日は、 15時30分に南中し、 21時23分に沈みます。

天王星は、おうし座にいて、宵に南の空にいます。

1月 1日は、 20時39分に南中し、 3時44分に沈みます。
1月 8日は、 20時11分に南中し、 3時16分に沈みます。
1月15日は、 19時43分に南中し、 2時48分に沈みます。
1月22日は、 19時15分に南中し、 2時20分に沈みます。

海王星は、うお座にいて、夕方南西の空にいます。

1月 1日は、 16時57分に南中し、 22時55分に沈みます。
1月 8日は、 16時30分に南中し、 22時28分に沈みます。
1月15日は、 16時03分に南中し、 22時01分に沈みます。
1月22日は、 15時36分に南中し、 21時35分に沈みます。

(出没の時刻は東京での目安です)

【スター紹介】

★M103★NGC581

カシオペヤ座にある散開星団です。

距離は3740光年、大きさは6光年、見かけの大きさは5' ^{☆11)}で、我々の銀河系内の星団です。

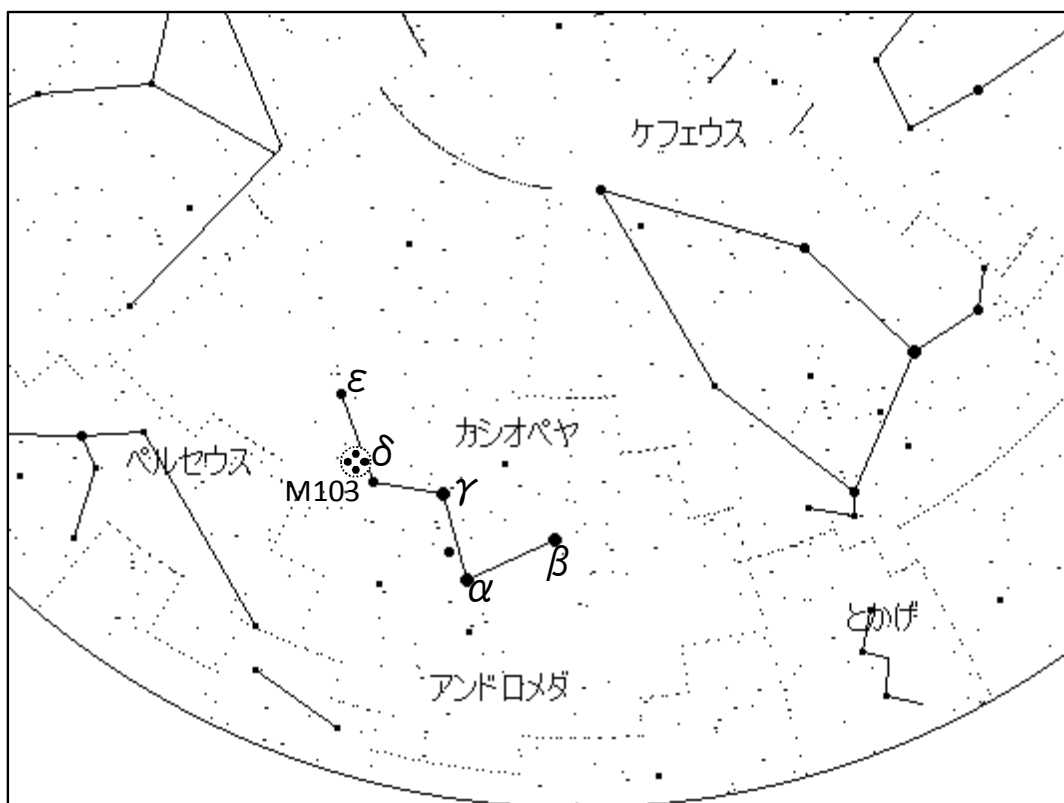
見かけの大きさ5' は、メシエ番号の付いた散開星団の中で最も小さい部類で、球状星団なみの大きさしかありません。星の数も少なくまばらで、これくらいの集まりなら天の川の中にいくらでもありそうな気もしますが探して見ましょう。

カシオペヤ座の「M」形の暗い方の頂点δ星の北0.5° 東（日周運動の逆方向）1° にあります。

双眼鏡で見ると背景にある天の川の星が見えすぎて分かりにくいかもしれせん。

口径5cmの望遠鏡なら周りより幾分星が集まっているような感じです。

大きい望遠鏡で見ると一段とまばらで寂しい感じになります。



M103 口径13cmにて撮影

【まめ知識】

★ベッセル年★

1年の始まりを平均太陽の赤経が18時40分(280°)^{☆04)}になる時と定めた暦法をベッセル年と言います。

最初に導入したベッセルに因んでいます。^{☆04)}

ベッセル年は、ほぼ1太陽年の長さに等しい^{☆12)}ことと、年初が現在の1月1日の近く^{☆04)}になります。

日常生活に用いられる1年は365日あるいは366日であるが、年によって変わるの是不便であるため日常的な年と天文学的な計算の便を兼ねるために考案され^{☆12)}ました。

^{☆04)}【天文の事典 小平桂一、日江井栄二郎、堀源一郎、監修 平凡社】

^{☆12)}【天文学辞典 日本天文学会 <https://astro-dic.jp/color-index/>】

【付録】

★ α Car (カノープス) 南中時刻 2026年(東京)

01月01日	23時19分
01月02日	23時15分
01月03日	23時11分
01月04日	23時07分
01月05日	23時04分
01月06日	22時60分
01月07日	22時56分
01月08日	22時52分
01月09日	22時48分
01月10日	22時44分
01月11日	22時40分
01月12日	22時36分
01月13日	22時32分
01月14日	22時28分
01月15日	22時24分
01月16日	22時20分
01月17日	22時16分
01月18日	22時12分
01月19日	22時08分
01月20日	22時05分
01月21日	22時01分
01月22日	21時57分
01月23日	21時53分
01月24日	21時49分
01月25日	21時45分
01月26日	21時41分
01月27日	21時37分
01月28日	21時33分
01月29日	21時29分
01月30日	21時25分
01月31日	21時21分

それではまた。

【参考文献】

- ☆01) 星の文化史事典 出雲晶子 白水社
- ☆02) カラー天文百科 小平桂一 監修 平凡社
- ☆03) 星 山本一清 晃文社
- ☆04) 天文の事典 小平桂一、日江井栄二郎、堀源一郎、監修 平凡社
- ☆05) 星座神話の起源—古代メソポタミアの星座 近藤二郎 誠文堂新光社
- ☆06) 星の百科 草下英明 社会思想社
- ☆07) ほしぞらの探訪 山田卓 地人書館
- ☆08) 四季の天体観測 中野繁 誠文堂新光社
- ☆09) 星座 沼澤茂美・脇屋奈々代 ナツメ社
- ☆10) 星座手帖 草下英明 社会思想社
- ☆11) 天文年鑑2025年版 天文年鑑編集委員会 編著 誠文堂新光社
- ☆12) 天文学辞典 日本天文学会 <https://astro-dic.jp/color-index/>